

420時間養成講座 現状と課題

学校法人服部学園
YAMASA言語文化研究所
谷山慎一

①420時間養成講座の経緯

- 1983年 留学生10万人計画
- 1985年 「日本語教員養成のための標準的な教育内容」
- 1986年 日本語教育能力検定試験開始
- 2000年 「日本語教員養成において必要とされる教育内容」
(学習者の多様化を受けて)
- 2016年 養成講座届出制開始

留学生を増やす目的で420時間養成講座が始まった。

②日本語教師の資格としての420時間

- 留学生を受け入れることが可能な日本語学校で教えるための資格の1つとして、
『4年生大学卒＋420時間養成講座修了』
- 日本語学校の日本語教師のうち、32%が上記資格を持つ。

日本語学校留学生に教えるために420時間養成講座が必要

③YAMASAの日本語教師養成講座の特徴

- 基礎知識・・・258時間（60%）
- 実践演習・・・162時間（40%）

実践力に注力

背景

- 愛知県三河地域...製造業が多く、豊田市保見地区などの外国人集住地域もありボランティアが盛ん。

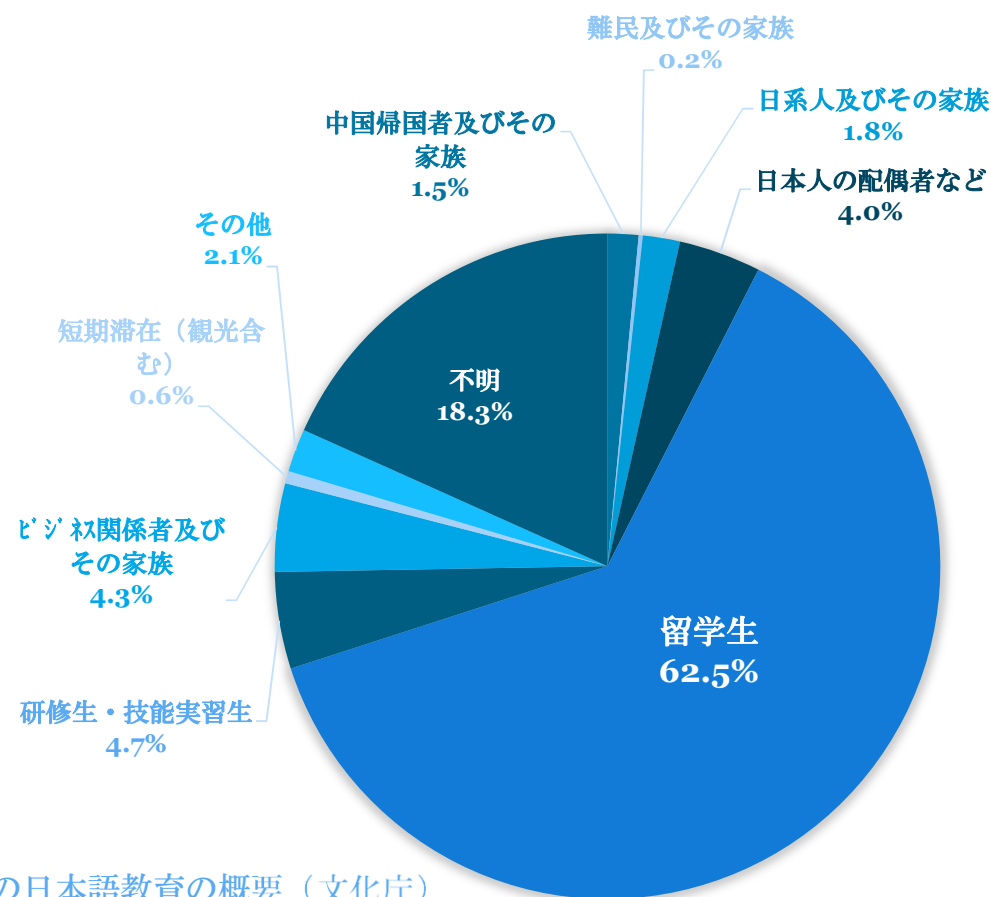
即戦力の育成

④受講者の特徴

- 『プロの日本語教師になりたい』
“日本語学校で働きたい”
“培ってきた技術を海外人材に伝え、役立てたい”
- 『海外で活躍したい』
- 『ボランティアの教育内容を充実させたい』
- 『技能実習生の日本語研修に必要なスキルを身につけたい』

⑤ 多様化する学習者

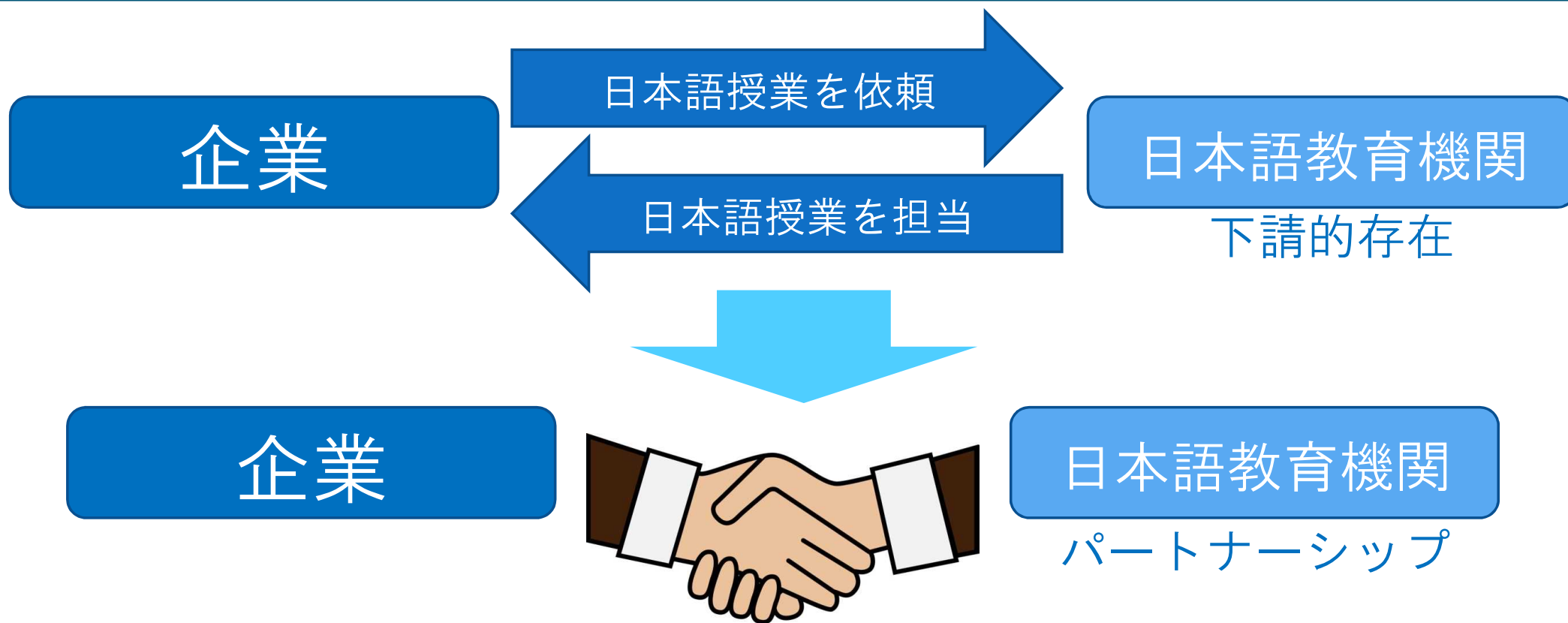
- 留學生以外にも、ビジネス関係者、短期滞在者、技能実習生など、学習者の背景はさらに多様化している。



【出典】平成28年度国内の日本語教育の概要（文化庁）

⑥多様化対応の実例（ビジネス関係者の場合）

<<<<<企業と日本語教育機関の関係>>>>>



⑦パートナーとして認知していただける教育機関へ

企業の求めるものは>>>

単なる「日本語」ではなく

抱えているお困りごとの解決



日本語教育をコアとした

ソリューション

そのために必要な人材は>>>

課題を形成し、解決につなげられる人材

⑧人材作りのための取り組み

420時間養成講座

取り組み



100時間社内研修

それにより

企業が求める

日本語教育をコアとした

ソリューション

の提供へ

- ① 『教える』より『気づいてもらう』
- ② 『ゴール』から計画を立てる
- ③ 達成度をお互いに共有
↳ 『結果の見える化』
- ④ 『共感』からコミュニケーションを発展させる (=話したい!という気持ちにさせる)